

業績一覧

梅澤 礼

I. 著書（単著）

1. 梅澤礼『狂える囚人—19 世紀フランスの監獄、文学、社会—』、法政大学出版局、近刊。

II. 著書（共著）

1. 梅澤礼『『対内戦争』の勃発—19 世紀フランスにおける監獄と犯罪者の概念の変遷—』、石塚正英、工藤豊編著、『戦争と近代—ポスト・ナポレオン 200 年—』、社会評論社、2011 年 9 月、116-130 頁。（査読あり）
2. 梅澤礼「学問的なものと学問的でないもの—19 世紀フランス『監獄学』を例に—」、石塚正英編著、『近代の超克Ⅱ—フクシマ以後—』、理想社、2013 年 10 月、193-207 頁。（査読あり）
3. 梅澤礼「空気と光を求めて—監獄改革と首都改造—」、澤田肇編著『パリという首都風景の誕生』、上智大学出版会、2014 年 4 月（査読あり）。
4. 梅澤礼「文学と犯罪学(1) 19 世紀前半の文学と『囚人に関する知』」、「文学と犯罪学(2) 19 世紀前半の文学と『監獄学』」、「文学と犯罪学(3) 19-20 世紀の文学と『共感の犯罪学』」、真野倫平編、『近代科学と芸術創造—19-20 世紀ヨーロッパにおける科学と文学の関係—』、南山大学出版会、2015 年 3 月、15-28、29-40、41-57 頁。（査読なし）
5. 梅澤礼「犯罪を人文学する—フランス言語文化からのアプローチ—」、『人文知のカレイドスコープ』、桂書房、2018 年 3 月、82-92 頁。（査読なし）

III. 論文（単著）

1. Aya UMEZAWA, « Contre la recherche scientifique sur l'*homo-criminalis*. L'exemple de Hugo, Proust et de De Greeff », *Les Lettres françaises*, 上智大学フランス語フランス文学会, n°26, 2006.08, pp. 1-14. （査読あり）
2. Aya UMEZAWA, « Le Siècle des peurs. Moreau-Christophe et la société française du XIXème siècle », *Les Lettres françaises*, 上智大学フランス語フランス文学会, n°27, 2007.08, pp. 13-27. （査読あり）
3. Aya UMEZAWA, « La Folie pénitentiaire chez les Goncourt. Pourquoi Elisa est-elle devenue folle sous le système auburnien ? », *Les Lettres françaises*,

- 上智大学フランス語フランス文学会, n°28, 2008.08, pp. 21-37. (査読あり)
4. 梅澤礼「文学の『更正』と犯罪学者による『検閲』—1820年、監獄図書コンクール—」、*Les Lettres françaises*, 上智大学フランス語フランス文学会、29号、2009年8月、1-10頁。(査読あり)
 5. Aya UMEZAWA, « Les Fous-prisonniers. Les premiers exclus de la France contemporaine et la théorie du tamis », in *Cahier Multiculturel de la Maison du Japon*, Centre d'Études Multiculturelles de la Maison du Japon, n°3, 2009.09, pp. 74-95. (査読なし)
 6. 梅澤礼「犯罪者の欠如せる境遇と過剰なる身体—トックヴィルのライバル、リュカの法思想—」、*Les Lettres françaises*, 上智大学フランス語フランス文学会、30号、2010年8月、27-34頁。(査読あり)
 7. 梅澤礼「一つの法、二つの未来—ヴィクトル・ユゴーの監獄法演説」、*Les Lettres françaises*, 上智大学フランス語フランス文学会、31号、11-18頁、2011年8月。(査読あり)
 8. Aya UMEZAWA, « La prison cellulaire et la folie des prisonniers. Histoire des représentations de la prison et des prisonniers (1819-1848) », thèse de doctorat dirigée par Dominique KALIFA et soutenue en mars 2012 à l'Université Paris I, Panthéon-Sorbonne.
 9. Aya UMEZAWA, « "Loi sur les prisons" et "*Les Misères*". Une autre origine du couvent de Saint-Michel », 『フランス語フランス文学研究』101号、日本フランス語フランス文学会、2012年8月、39-56頁。(査読あり)
 10. 梅澤礼「19世紀フランスの『囚人文学』」、『世界史研究論叢』1号、世界史研究会、2012年9月、54-61頁。(査読あり)
 11. 梅澤礼「文学と犯罪学—19世紀前半の文学と監獄—」、南山大学地域研究センター共同研究『19-20世紀のヨーロッパにおける科学と文学の関係』、南山大学、2013年3月、39-48頁。(査読なし)
 12. 梅澤礼「『パリの秘密』における隠語の使われ方について—1840年代の隠語と文学—」、*Les Lettres françaises*, 上智大学フランス語フランス文学会、33号、2013年8月、13-21頁。(査読あり)
 13. Aya UMEZAWA, « Criminel exceptionnel ou écrivain déçu ? —Essai sur la source de Lacenaire— », 『日吉紀要』、慶應義塾大学フランス語フランス文学、57号、2013年10月、15-32頁。(査読なし)
 14. 梅澤礼「文学と犯罪学—モロー＝クリストフの監獄学—」、南山大学地域研

究センター研究報告『19-20 世紀ヨーロッパにおける科学と文学の関係』、2014 年 3 月、121-130 頁。(査読なし)

15. Aya UMEZAWA, « Réformer par le livre. Une initiative méconnue de la Société royale pour l'amélioration des prisons (1819-1821) », *Criminocorpus. Revue hyper média, Histoire de la justice, des crimes et des peines*, <http://criminocorpus.revues.org/2741>、2014 年 6 月、(査読あり)。

16. Aya UMEZAWA, « *La Fille Elisa* et les ouvrages sur les prisons. Autour de la citation de Baillarger », 『フランス語フランス文学研究』105 号、日本フランス語フランス文学会、2014 年 8 月、61-75 頁。(査読あり)

17. 梅澤礼「奇形学、犯罪学、そして文学」、『日吉紀要』、慶應義塾大学フランス語フランス文学、60 号、2015 年 3 月、15-27 頁。(査読なし)

18. Aya UMEZAWA, « *Les Chants de Maldoror* et les *Mémoires de Lacenaire* », *Littéra*, n°1, 日本フランス語フランス文学会、2016 年 3 月、83-91 頁。(査読あり)

19. 梅澤礼「精神障害者と犯罪者—デジェネレサンス理論の形成過程に関する一考察—」、『立命館言語文化研究』、28-1 号、2016 年 9 月、281-290 頁。(査読あり)

20. 梅澤礼「エクトール・マロとエミール・ゾラー精神病者に関する法 (1838) と文学—」、『富山大学人文学部紀要』68 号、富山大学人文学部、2018 年、171-180 頁。(査読なし)

21. 梅澤礼「19 世紀における『男らしさ』の危機—監獄、徒刑場、植民地—」、『文学とジェンダー—第 21 期女性学講演会第 2 部』、2018 年、49-64 頁。(査読なし)

22. Aya UMEZAWA, « La description littéraire de l'aliénation mentale chez Hector Malot », 『フランス語フランス文学研究』112 号、日本フランス語フランス文学会、掲載決定。(査読あり)

IV. 翻訳 (単訳)

1. ドミニク・カリファ「19 世紀新聞史を再考する」、梅澤礼訳、『日仏文化』第 82 号、日仏会館、2013 年 3 月。

2. ドミニク・カリファ『犯罪・捜査・メディア—19 世紀フランスの治安と文化—』、梅澤礼訳、法政大学出版局、2016 年 10 月。

V. 翻訳（共訳）

1. アラン・コルバン『英雄はいかに作られてきたか』、小倉孝誠監訳、小池美穂、梅澤礼訳、藤原書店、2014 年 3 月。
2. ピエール＝フランソワ・ラスネール『回想録』、小倉孝誠、梅澤礼訳、平凡社、2014 年 8 月。

VI. 国際会議等における口頭発表

1. Aya UMEZAWA, « Les Fous-prisonniers. Les premiers exclus de la France contemporaine et la théorie du tamis », intervention faite le 13 juin 2009 à la troisième séance de la CEM (Centre d'Études Multiculturelles de la Maison du Japon) à Paris, France.
2. Aya UMEZAWA, « Une loi, deux avenir. Loi sur les prisons et Les Misères de Victor Hugo », présentation faite le 11 mars 2014 dans le séminaire « Société et représentation » à l'Université Paris I, France.
3. Aya UMEZAWA, « Les prisonniers sentis. Usage de la littérature des prisonniers dans une recherche historico-littéraire », communication faite le 21 septembre 2018 dans l'atelier « Quelles sources pour l'histoire des sens ? » organisé par la Société des études romantiques et dix-neuviémistes à Paris, France.
4. Aya UMEZAWA, « La culture du crime et la littérature. Les chauffeurs dans La Terre de Zola », communication faite le 2 décembre 2018 dans le colloque « La littérature et la culture populaire au XIXe siècle » à l'Université de Shinshu, à Matsumoto, Japon.

VII. 学会口頭発表

1. 梅澤礼「文学は犯罪学にどのように貢献できるのかーエティエンヌ・ド・グレエフの理論とマルセル・プルーストの描写の比較」、2004 年 11 月、上智大学フランス語フランス文学研究会第 25 回研究発表会（上智大学）。
2. 梅澤礼「ヴィクトル・ユゴーの作品と比較して考える 1843 年の監獄法案」、2005 年 11 月、上智大学フランス語フランス文学研究会第 26 回研究発表会（上智大学）。
3. 梅澤礼「一つの法、二つの未来ーユゴーと 1843 年の監獄法案ー」、2006 年 3

月、日本フランス語フランス文学会関東支部大会（千葉大学）。

4. 梅澤礼「監獄法案と作家たち」、2007 年 11 月、上智大学フランス語フランス文学研究会第 28 回研究発表会（上智大学）。

5. 梅澤礼「1830-40 年代の監獄論争はバルザックにどのような影響を与えたのか?」、2008 年 3 月、日本フランス語フランス文学会関東支部大会（学習院大学）。

6. 梅澤礼「反博愛・反独房—バルザックと監獄論争—」、2008 年 5 月、バルザック合同研究会（青山学院大学）。

7. 梅澤礼「監獄文学とはなにか」、2009 年 11 月、日本フランス語フランス文学会 2009 年度秋季大会（熊本大学）。

8. 梅澤礼「書かれなかったラスネール—『セレイッドの鷲』二つの第一幕をめぐって—」、2009 年 11 月、上智大学フランス語フランス文学研究会第 30 回研究発表会（上智大学）。

9. 梅澤礼「七月王政期の監獄問題専門書における監獄と囚人の描写」、2010 年 2 月、上智大学フランス語フランス文学研究会博士課程最終発表会（上智大学）。

10. 梅澤礼「作家としてのラスネール—初期作品『セレイッドの鷲』を読む—」、2010 年 10 月、日本フランス語フランス文学会秋季大会（南山大学）。

11. 梅澤礼「ユゴーの『監獄法』」、2010 年 11 月、上智大学フランス語フランス文学研究会第 31 回研究発表会（上智大学）。

12. 梅澤礼「『監獄法』と『レ・ミゼール』—サン・ミッシェル修道院の規則にもたらされた加筆・修正から—」、2011 年 10 月、日本フランス語フランス文学会秋季大会（小樽商科大学）。

13. 梅澤礼「ウージェーヌ・シュエ『パリの秘密』における隠語の使われ方について」、2012 年 10 月、日本フランス語フランス文学会秋季大会（神戸大学）。

14. 梅澤礼「監獄改革と首都改造」、2012 年 11 月、「パリという首都風景の誕生—フランス大革命から世界大恐慌まで（科学研究費補助金プロジェクト）」研究会（上智大学）。

15. 梅澤礼「文学と犯罪学—19 世紀前半の文学と監獄—」、2012 年 12 月、「19—20 世紀のヨーロッパにおける科学と文学の関係（南山大学地域研究センター共同研究）」研究会（南山大学）。

16. 梅澤礼「『娼婦エリザ』におけるバイヤルジェの引用の問題」、2013 年 10 月、日本フランス語フランス文学会秋季大会（別府大学）。

17. 梅澤礼「文学と犯罪学—モロー＝クリストフの監獄学—」、2013 年 12 月、

南山大学、東京大学共催シンポジウム「科学知の詩学—19-20 世紀のドイツとフランスにおける科学と文化、芸術」（東京大学駒場キャンパス）。

18. 梅澤礼「奇形学、犯罪学、文学」、2014 年 10 月、日本フランス語フランス文学会秋季大会ワークショップ「文学は知をどのように取り入れるか」（広島大学）。

19. 梅澤礼「『マルドロールの歌』に生きる『回想録』—ロートレアモンとラスネール—」、2014 年 11 月、上智大学フランス語フランス文学研究会第 35 回研究発表会（上智大学）。

20. 梅澤礼「文学と犯罪学—20 世紀前半の文学と『共感の犯罪学』—」、2014 年 12 月、「19—20 世紀のヨーロッパにおける科学と文学の関係（南山大学地域研究センター共同研究）」研究会（南山大学）。

21. 梅澤礼「デュカスとラスネール—『回想録』から『マルドロールの歌』へ—」、2015 年 3 月、日本フランス語フランス文学会関東支部大会（白百合女子大学）。

22. 梅澤礼「エチエンヌ・ド・グレーフによる『殺人犯の心理』—ヘール、犯罪学の分岐点—」、2015 年 5 月、ベルギー研究会（大阪産業大学）。

23. 梅澤礼「監獄から流刑へ—七月王政期における囚人の表象—」、2015 年 10 月、関西フランス史研究会（京都大学）。

24. 梅澤礼「精神障害者の文学表象—エクトール・マロとエミール・ゾラ—」、2015 年 10 月、自然主義文学研究会（京都大学）。

25. 梅澤礼「科学に利用される文学？『監獄学』の成立過程を追う」、2015 年 10 月、日本フランス語フランス文学会ワークショップ「近代科学と芸術創造—19-20 世紀ヨーロッパにおける科学と文学の関係—」、（京都大学）。

26. 西岡杏奈、山本大地、杉山香織、田島義士、梅澤礼「フランス語教育の現在とこれから—『できること』と『したいこと』—」、2016 年 3 月、関西フランス語教育研究会、（上田安子服飾専門学校）。

27. 梅澤礼「エミール・ゾラとエクトール・マロ—登場人物の強制入院と発狂の描写をめぐって—」、2016 年 5 月、日本フランス語フランス文学会春季大会（学習院大学）。

28. 梅澤礼「精神科医の SF 小説—ステファン・オータンことエチエンヌ・ド・グレーフによる知の越境の軌跡」、2016 年 12 月、日本・ベルギー修好 150 周年記念シンポジウム「文化・知の多層性と越境性へのまなざし—学際的交流とベルギー学の構築をめざして—」（東京理科大学）。

29. 梅澤礼「エクトール・マロによる精神病の描写 —『義兄弟』から『シャル

ロットの夫』へー」、2017年5月、日本フランス語フランス文学会春季大会（東京大学駒場キャンパス）。

30. 梅澤礼「囚人たちの男らしさ―監獄、徒刑場、植民地―」、2017年10月、日本フランス語フランス文学会ワークショップ「19世紀フランス文学における『男らしさ』の危機」、(名古屋大学)。

31. 梅澤礼「犯罪を人文学する―フランス言語文化からのアプローチ―」、2017年11月、「人文学部コレギウム」(富山大学)。

32. 梅澤礼「19世紀における囚人たちの男らしさ―隠語、文学、医学書から―」、2017年12月、「女性学講演会」(大阪府立大学 i-site なんば)。

33. 梅澤礼「こわいドン・ファン―幻想文学作家としてのメリメー―」、2018年9月、「ヨーロッパこわいはなし」(富山大学)。

34. 梅澤礼「悪魔の見えざる手―『煉獄の魂』再考―」、2018年10月、日本フランス語フランス文学会ワークショップ「見えるもの、見えないもの―19世紀幻想文学を再考する―」(新潟大学)。